

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年02月26日

計画の名称	犬山駅周辺地区都市再生整備計画												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	犬山市												
計画の目標	大目標：城下町地区の観光振興と市民活動と多彩な交流促進によるコンパクトな市街地形成を実現する都市拠点の形成 目標1 市民主体のまちづくり活動の充実やインパウンドの増加に対応した交流拠点づくり 目標2 城下町地区と木曽川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を生かしたまちの継続的発展												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	226	A	220	B	0	C	6	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	2.65	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31年度当初	R3年度末	R5年度末
1	交流拠点づくりにより、交流施設の市民活動、交流活動で利用される会議室、多目的等の平均利用率を30%から40%へ増加 交流施設の利用率を調査する。 市民活動、交流活動で利用される会議室、多目的室等の平均利用率	30%	35%	40%
2	交流拠点づくりにより、市民の市民活動への参加意向割合を66%から70%へ増加 市民活動への参加意向割合を調査する。 市民活動への参加意向割合：(参加意向を示した回答)/(市民意識調査回答者)×100	66%	68%	70%
3	城下町の魅力向上により、犬山城下町への再来訪意向割合を86%から90%へ増加 犬山城下町への再来訪意向割合を調査する。 犬山城下町への再来訪意向人数：(アンケート調査)/(犬山城下町観光客のアンケート対象者)×100	86%	88%	90%
4	城下町と木曽川河畔エリアの回遊性向上などにより、犬山遊園駅の年間乗降客数を412千人から422千人へ増加 犬山遊園駅の年間乗降客数(定期利用者を除く)を調査する。 犬山遊園駅の年間乗降客数(定期利用者を除く)の数	412千人	412千人	422千人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
提案事業を加味した効果促進事業の割合 A:220百万円(うち提案事業35.5百万円) B:0百万円 C:6百万円 D:0百万円 効果促進事業の割合:(A(提案分)+C)/(A+B+C+D)=18.4%														

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	犬山市	直接	犬山市	-	-	犬山駅周辺地区都市再生整備計画	152ha 既存建造物活用、地域生活支援施設、高質空間形成施設、街なみ環境整備	犬山市						220	2.17	-	
												小計						220		
											合計						220			

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	C10-001	都市再生	一般	犬山市	直接	犬山市	-	-	事業効果分析調査	事業効果分析	犬山市						6	-		
		都市再生（A10-001）と一体的に事業効果分析を行い、今後の方針に繋げることでPDCAサイクルによるまちづくりを図る。																		
												小計						6		
											合計						6			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<ul style="list-style-type: none"> ・庁内の関係課による事後評価検討会議実施（令和5年12月8日） ・事後評価シート（案）のパブリックコメント実施（令和5年12月11日～令和6年1月5日） ・都市再生整備計画評価委員会実施（令和6年1月18日） 	令和6年度
	公表の方法
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町の再来訪意向について、犬山駅周辺や城下町周辺の整備といった観光地の環境整備により、再来訪意向が増加した。 ・交流施設の利用率、市民活動参加意向、犬山遊園駅の年間乗降客数については、新型コロナウイルスの影響もあり目標値に未達となったが、コロナ禍直後と比較し増加傾向にあるため、令和6年度にフォローアップを実施予定。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業で整備した市道犬山395号線の歩道部分は道路区域から外し、イベント等の利活用が可能となった。 ・市民交流センター「フロイデ」内に子育て支援施設を移転することで、子育て支援施設と公共施設をつなぐネットワークが構築された。 ・犬山市協働プラザ「わんまるーむ」における市民活動等の積極的な活用が確認された。
特記事項（今後の方針等）	
犬山市都市拠点地区都市再生整備計画事業を実施予定。（令和6年度～令和10年度） まちなかウォークブル推進事業に移行	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	40%	交流施設（市民交流センター「フロイデ」）の利用率は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少傾向が見られるが、令和4年度には従前値と同等程度まで回復している。
	最終実績値	31%	
2	最終目標値	70%	市民活動参加意向は、従前値である平成30年度から評価値である令和5年度に向けて減少している。指標1交流施設の利用率が伸び悩んでいることを踏まえると、市民活動の減少に伴い、その意向も減少していると考えられる。
	最終実績値	53%	
3	最終目標値	90%	犬山駅西駅前広場の整備や、城下町周辺の市道犬山395号線、城前線の整備、歴史あるまちなみの保存及び修理に向けた事業の継続により、着実に観光客の再来訪意向は向上している。
	最終実績値	100%	
4	最終目標値	422千人	犬山遊園駅の年間乗降客数は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少が見られる。令和3年度以降からは回復傾向が見られるが、令和4年度も従前値の半数程度までしか回復していない。今後の観光客の動向にもよるが、目標値の達成は難しい。
	最終実績値	245千人	